

平成28年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間振り返り

| 事業実施団体名 |
|--|
| 横浜コミュニティカフェネットワーク |
| 事業名 |
| <p>横浜市市民活動支援センター自主事業部門（補助事業：平成27年度～平成29年度）</p> <p>【テーマ】 中間支援組織の機能の充実</p> <p>「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」</p> |
| 事業概要 |
| <p>カフェが中間支援の役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを確かめ、「市内のコミュニティカフェが中間支援組織として力をつけるための支援」と「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援力の向上」の両方を目指す。</p> <p>2年目は、市民がカフェを通じた地域づくりの主体になるための出口機能という視点で、地域の多様な主体との連携強化の可能性を探る。</p> |
| 事業進捗状況 |
| <p>1 訪問調査（6か所予定、3か所終了）</p> <p>① さくら茶屋にししば（金沢区） 訪問日：6月23日（木）午前</p> <p>② 都筑区地域振興課・区民活動支援センター 訪問日：5月25日（水）午前</p> <p>③ 戸塚区地域振興課・区民活動支援センター（運営団体：NPO法人くみんネットワークとつか） 訪問日：6月28日（火）午後</p> <p>2 カフェ伴走会議</p> <p>・カフェ伴走会議新規団体公募実施（5月）</p> <p>① 反町駅前ふれあいサロン（神奈川区）</p> <p>② コミュニティーサロンおさん（南区）</p> <p>③ ハートフルポート（旭区）</p> <p>・カフェ伴走支援（継続）</p> <p>① シェアリーカフェ（都筑区）</p> <p>② 大倉山おへそ（港北区）</p> |
| 主な意見交換内容 |
| <p>（委員） コミュニティカフェというのは、思いを持った人々が個人的に立ち上げているものだったが、このように中間支援機能を持ったコミュニティカフェのネットワークを作っていくということに期待している。一方で、参加しているカフェの運営者は、ネットワークでつながっていくことや、働きかけをすればするほど、期待が高まり、これまでの取組に支障が出たりしていないのか。個々の活動と、ネットワークでつながっていくことのメリット、デメリットについて教えていただきたい。</p> <p>（横浜コミュニティカフェネットワーク） 個別事情によると思うが、確かに、外部の人が関わること</p> |

によって組織がかき乱され、そのことに時間とエネルギーを使うことがあることは経験上わかっている。しかし、今回はその覚悟のある団体が集まっている。また、自分たちだけで閉ざしているのではなく、地域に広がっていることが自分たちの目指していることにつながっていくことだと思っている。

また、事業性などでは、地域課題が大きくなればなるほど自助努力でできる部分とできない部分があって、その部分については行政や企業などの支援を受けなければならないこともある。そういったことにきちんと向き合っていくには、力をつけていかななくてはいけない。自分達はこんないいことをやっている、というだけでは立ち行かなくなってくると思っている。

(委員) コミュニティカフェの中間支援機能ということは、地域社会に新しい風を吹かせて始めている。中間支援機能があるということを、当事者たちが気づかなかったけれど、実際にやっているという気づきの機会を与えられるということは、非常に大きなことだと思う。自分たちの活動を自覚的にとらえ返すことにより、自分たちの活動がよりステップアップしていくことにつながると思う。

また、気軽に始められるが、その後課題が出てきたときに支援があるというのは、地域にとってとても喜ばしいことであると思う。

(団体) 2年目も検討会が続くことを期待していたが、今年度はカフェ伴走支援が中心ということになっている。また、今年度は2月の公開フォーラムと中間報告ということだと、1年目の積み上げが生かされていないような印象を受ける。最終的に、増えつつある横浜のコミュニティカフェのネットワークを総体としてどのように考えているのか教えていただきたい。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 昨年度の経験から、伴走支援して共通の経験値にしていくことが、実は簡単ではないことが分かった。5月に伴走支援するカフェを公募し、今月から本格的に支援に入ることができるようになった。ここまで時間がかかったのは、主担当がそれぞれのカフェに足を運んで、今の状況はどうなのか、どこに向かうのか、どこまで内部で情報が共有されているのか、どのように関わっていくか、検討していたためである。

我々は、伴走支援の支援者が、それぞれ支援の場を経験し、共通の経験をすることが重要であると思っている。支援にどんなプロセスが必要であり、どれだけ時間がかかるかはやってみないとわからないところがある。そのプロセスを可視化し、応用できる形にしていくということに、協働事業として横浜市に投資していただいていると理解している。

2年目としては結果が見えにくくなっているかもしれないが、自分たちの経験をできるだけ内部で共有して行くことが重要と思っている。

(委員) 組織は同じ形では力がついていかないと思っている。中間支援の学びをすることで、自分たちのカフェのあり方が、何か働きかけがあった時に、社会とのつながりの中で、より意味のあるものを感じられることになるのではないかとと思っている。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) コミュニティカフェは、社会に開いていこうというのがこの10年ぐらいの流れとなっている。毎日場を開いていることで、地域の方との接点が生まれていく。面白いことや課題が運営者によりつながれていき、コーディネート等となっていく。そういった機能を意味づけたり、後押ししたりすることを、我々が行っていくことで、コミュニティカフェの中間支援機能がぐっと伸びていくと思っている。

事業計画書

| 提案 事業名 | カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及 |
|--------------------|---|
| <p>1 趣旨・目的</p> | <p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内各區では、区民活動支援センター・区社会福祉協議会・地区センター・地域ケアプラザ・コミュニティハウスなどの施設が、団体や住民の活動拠点となっている。 この10年ほどの間に「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が市内に次々生まれている。飲食を伴わないカフェ的な場も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様だ。 「目的を持たなくても利用できる」カフェは敷居を低く、多様な利用者に、居場所や情報、地域での役割（出番）も提供している。また、団体の運営支援やネットワークづくり、連携のコーディネイト等、中間支援機能を果たす要素を内在している。 市内に早期に開設されたカフェでは、エリアマネジメント、ネットワークづくり、団体運営相談等、既に中間支援役割を果たし始めている。この数年は、横浜市まち普請事業を活用し地域づくりを意識して開設するカフェ等も増えて、そうした中間支援志向のカフェに、支援機能の強化ニーズが出てきている。 <p>【事業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年の本事業では、カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを一定把握、改めてその意義の可視化の重要性を認識できた。一方で、コミュニティカフェが中間支援組織として認知されていない現状や、コーディネイトを円滑にするためには、コミュニティカフェが果たしている役割や意義の可視化が必要であることも見えてきている。 2年度目は初年度の成果を基に、小地域での中間支援機能の強化にコミュニティカフェが一定の役割を果たすための体制づくり、ネットワークやコーディネイトの力量を高めるために必要なこと等を模索する。それらを通じて「市内のコミュニティカフェが中間支援組織として力をつけること」と「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援力の向上」の両方を目指す。 また併せて、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動支援センターを初めとする区域の中間支援組織や活動拠点との連携についても考え、各地域（中学校区程度の小地域等）での市民活動の支援環境のあり方も考えていきたい。 |
| <p>2 事業内容</p> | <p>(事業実施地域)</p> <p>横浜市域（小地域をベースとしたモデル事例5カ所程度と、中間支援機能を志向する15程度のコミュニティカフェが運営されているエリア）</p> <p>(事業の対象者)</p> <p>横浜市内で運営されているコミュニティカフェと、当該カフェが立地する地域住民、地域活動団体等、まちづくりの多様な主体</p> |

(事業内容) H27～H29年の3か年で、下記の事業を行う。

1. 事例検討会 (H27年5回、16団体)

既に中間支援機能を果たすコミュニティカフェの事例から、成功要因やその機能を把握し、カフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき力量を整理する。

2. カフェ伴走会議 (H27年・H28年、計5団体+5～6団体、検討会議2回15団体程度)

中間支援組織を志向するカフェ運営団体(5団体・2年目新規3団体公募)に対し、既に中間支援機能を持ち得ている先行取組カフェ5～6団体の関係者が伴走支援を行う。個別カフェの支援機能強化・先行取組カフェの力量向上と同時に、伴走支援を通じて横浜コミュニティカフェネットワークの支援力向上も図る。

また、小地域での中間支援機能強化を進めるために、カフェ単独でなく地域のステークホルダーと連携協力して体制構築する可能性を模索する。

3. 公開フォーラム開催 (H27年・H28年・H29年、年1回、各回60名規模)

「事例検討会」と「カフェ伴走会議」で把握された成果について報告共有の場をつくり、コミュニティカフェの中間支援機能に関する理解と、関心層を広げる。

4. 訪問調査 (H27年6か所、H28年6か所)

横浜市内のカフェがどのように中間支援役割を果たしているのか、地域での連携の可能性、課題やニーズ等を、訪問し把握する。2年目は区民活動支援センター等も訪問、地域での中間支援機能の状況把握と連携可能性を探る。

5. 地域フォーラム開催 (H29年、市内5か所)

「カフェ伴走会議」の支援対象カフェが、各地域で多様な主体と連携した地域フォーラム(自主勉強会)を開催し、具体的な中間支援の力量形成・支援基盤強化に取り組む。カフェ支援会議の支援者が、継続して助言をする。

6. 報告書、啓発冊子の制作発行 (H27年、H28年、H29年)

事業成果(コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義、中間支援機能や役割の整理、コミュニティカフェでの支援の実際、事例等)を年度ごとに記録し、中間報告をWEB掲載。3年目に報告書(無料配布)と啓発冊子(有料頒布)の2種類を発行する。

※この頁は、事業提案時に、横浜市市民活動支援センター自主事業実施要綱第1号様式にて継続希望「あり」とされた場合、又は前年度以前から提案を継続している団体のみ記入してください。

| | | 個別カフェの支援力強化 | 当ネットワークの支援力強化 |
|---|---|--|--|
| 3 事業計画（事業経過） | H27年度 | 2. カフェ伴走会議（1年目） 2団体（+伴走側2団体） ・伴走先との調整 ・伴走会議 計7回（3回+4回） | ●支援センター事業他団体との連携調整 4. 訪問調査 （6カ所） 1. 先進事例研究 （5回） ・事例調整 ・研究会開催 6. 報告書の素材作成 3. 公開フォーラム ・企画準備 ・広報 ・フォーラム開催 ・中間報告 WEB 掲載 |
| | H28年度 | 2. カフェ伴走会議（2年目） 5団体（公募新規3+継続2） （+伴走側3団体） ① 新規団体の公募選考 ② 伴走会議 計13回 （@3回×新規3団体） （@2回×継続2団体） ③ カフェ検討会 （15団体程度・2回） | 4. 訪問調査 （6カ所） ・訪問先の選定・調整 ・訪問調査 6. 報告書の素材作成 3. 公開フォーラム ・企画準備 ・広報 ・フォーラム開催 ・中間報告 WEB 掲載 |
| | H29年度 | 5. 地域フォーラム （4団体＝伴走会議伴走先） ・各地域での企画・調整 ・伴走者による助言 計4回（@1回×4） ・地域フォーラム開催 | 6. 報告書・啓発冊子の発行 ・原稿執筆・編集作業 ・印刷 3. 公開フォーラム ・企画準備・広報 ・フォーラム開催 |
| | | 「報告書」の発行・送付、WEB 掲載 「啓発冊子」の発行 | |
| 4 横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携 | 1. 横浜市市民活動支援センター（市民セクターよこはま） ①カフェ伴走会議「検討会」へ中間支援組織として参加 ②アニメイト取材等を通じた現場訪問、特に拠点に関わる情報の共有をお願いしたい。 ③各区区民活動支援センター関係者が市域に集まる会議等で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について意見交換等をお願いしたい。 2. アクションポート横浜・ETIC 市民レポーター事業や、学生インターンを受け入れ、公開フォーラム企画運営等で連携したい。 上記を通じ、公開フォーラムでの報告や、訪問調査の団体選定の素材とする。またこれからの地域づくりにコミュニティカフェが果たす役割や意義、地域連携について議論を行い、相互に連携して取り組みたい。 | | |

5 具体的な事業内容 期待される効果及び予算等
 (既に本事業による取組を実施している場合、実施済みの年については事業結果及び決算を記入)

| | |
|--------|---|
| H27 年度 | <p>(事業結果)</p> <p>1. 訪問調査 (6か所) 自治会・町内会が行っているカフェ等を中心に、コミュニティカフェが果たしている中間支援的役割の状況を、課題も含めて訪問調査した。</p> <p>2. 事例検討会 (5回) 事例から、カフェで行われている中間支援機能を把握し、コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき機能や力量などの視点を整理した。</p> <p>3. カフェ伴走会議 (2団体(+2団体)、計7回) 中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援的役割を持ち得ている先行取組カフェの関係者が支援者となり伴走支援を行った。</p> <p>4. 公開フォーラム開催 (1回、80名参加) 1と2で把握された視点や現状について広く報告共有した。</p> <p>5. 報告書の素材整理 (視点と先進事例) 成果をまとめ、中間報告をWEBに掲載。</p> <p>(期待される効果) 視点の整理と共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェが中間支援を果たす意義や、必要となる要素、支援機能のプログラムや仕組みについて、今後の取組の視点が整理された。 ・具体的な個別カフェ2か所の現状把握とコミュニティカフェが果たす中間支援のあり方について理解が進み、先行取組カフェ2か所の力量形成がはかられた。 ・各種事業を通じて、当団体の中間支援の経験値が上がった。 <p>(事業の決算見込額) 2,301 千円 (横浜市補助金額) 2,000 千円</p> |
| H28 年度 | <p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. 訪問調査 (6か所) 各地のカフェが持つ中間支援的役割の現状や課題、運営団体の意識確認も含めて訪問調査する。区民活動支援センターなどの地域版中間支援機能についてもヒアリングを行い連携の可能性を考える。</p> <p>2. カフェ伴走会議 (10回 (2(+3団体)×@3回、2(+3団体)×@2回)+2回) 前年からの継続2団体に公募で新規3団体を加えて5団体を対象とし、先行取組カフェ3団体の関係者が伴走支援を行う。またカフェ関係者(15団体程度)と中間支援組織、学識者等による検討会(2回)を行いそれぞれの中間支援力の底上げをする。</p> <p>3. 公開フォーラム開催 (1回、60名規模) 1と2で把握された現状を広く報告し、今後を考える場をつくる。</p> <p>4. 報告書の素材整理 成果をまとめ、中間報告をWEB掲載と関係者分印刷100部</p> <p>(期待される効果) 現状とニーズ把握、支援ノウハウ・実績の蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地のコミュニティカフェの意識や現状、課題についての把握が進み、当ネットワークが果たす広域中間支援のあり方を考える素地となる。 ・個別カフェ15か所の中間支援に対する理解と支援力強化、先行取組カフェ3か所の力量形成が進む。 ・当団体による個別支援の経験・実績が蓄積される。 <p>(事業の総予算額) 2,300 千円 (横浜市補助金額) 2,000 千円</p> |
| H29 年度 | <p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. 報告書と啓発冊子の制作</p> <p>①報告書 (約20ページ300部) 区役所、区民活動支援センター、市内コミュニティカフェ等へ送付</p> <p>②啓発冊子 (約30ページ700部) コミュニティカフェによる中間支援役割と機能、中間支援組織の地域連携等について理解を広げるための「啓発冊子」を制作し、希望者や今後の啓発活動や相談対応で、有料頒布する。</p> <p>2. 地域フォーラム開催 (市内4か所) カフェ伴走会議で伴奏支援を受けた団体が、各地域で多様なまちづくりの主体・住民を募りフォーラム (または自主勉強会) を開催し、地域課題の共有や具体的なネットワークづくりを実践し、コーディネート能力向上させる。カフェ支援会議の支援者は、引き続き助言を行う。</p> <p>3. 公開フォーラム開催 (1回、60名規模) 3か年の成果を広く報告し、カフェ型中間支援組織の展開を考える場をつくる。</p> <p>(期待される効果) 普及と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織を自覚し実践する複数のカフェが市内に生まれる。 ・カフェ型中間支援機能を啓発普及させるための実績とツールができる。 <p>(事業の総予算額) 2,400 千円 (横浜市補助金額) 2,000 千円</p> |

(第4号様式)

事業収支予算書

【収入】

(単位:円)

| 項目 | 金額 | 説明 |
|--------------------|-----------|----------------------|
| 横浜市市民活動支援センター事業補助金 | 2,000,000 | |
| 団体負担(会費・寄付等) | 240,000 | 会費寄付より充当 |
| 参加費・資料代等 | 60,000 | 公開フォーラム参加費 1000円×60名 |
| 合計 | 2,300,000 | |

【支出】

| 項目 | 金額 | 説明(使途、積算根拠等) |
|-----------------|----------------|---------------------------|
| 訪問調査 | 調査費 | 18,000 3,000円×6団体 |
| | 交通費 | 24,000 2,000円×6団体×2名 |
| | 人件費 | 75,000 2,500円×30hrs |
| | | 30,000 1,000円×30hrs |
| 伴走会議 (新規団体) | 団体公募費 | 10,000 |
| | 支援団体受入れ謝金 | 60,000 10,000円×3回×2団体 |
| | 会場費 | 30,000 5,000円×3回×2団体 |
| | 人件費(主担当支援者) | 200,000 2,500円×40h×2団体×1名 |
| | 交通費(主担当支援者) | 16,000 2,000円×4回×2団体×1名 |
| | 人件費(支援者) | 120,000 2,500円×12h×2団体×2名 |
| | 交通費(支援者) | 24,000 2,000円×3回×2団体×2名 |
| | 事務局人件費 | 27,500 2,500円×11hrs |
| 伴走会議 (2年目団体) | 支援団体受入れ謝金(継続) | 40,000 10,000円×2回×2団体 |
| | 会場費(継続) | 20,000 5,000円×2回×2団体 |
| | 人件費(主担当支援者) | 135,000 2,500円×27h×2団体×1名 |
| | 交通費(主担当支援者) | 8,000 2,000円×2回×2団体×1名 |
| | 人件費(支援者) | 80,000 2,500円×8h×2団体×2名 |
| | 交通費(支援者) | 16,000 2,000円×2回×2団体×2名 |
| | 事務局人件費 | 33,000 1,000円×33hrs |
| | 伴走会議 (検討会議) | 講師謝礼金 |
| 開催費 | | 60,000 15,000円×4回 |
| 交通費 | | 144,000 2,000円×18名×4回 |
| 事務局人件費 | | 125,000 2,500円×50hrs |
| | | 20,000 1,000円×20hrs |
| 公開フォーラム | 講師謝礼金 | 30,000 30,000円×1名 |
| | 報告者謝礼金 | 60,000 10,000円×6名 |
| | 会場費 | 55,000 お茶代含む |
| | 広報印刷費 | 60,000 広報チラシ・配布資料 |
| | 事務局人件費 | 67,500 2,500円×27hrs |
| | | 6,000 1,000円×6hrs |
| 報告書 | 原稿執筆謝金 | 240,000 30,000円×8名 |
| | 事務局人件費 | 185,000 2,500円×74hrs |
| | 印刷費 | 60,000 100部関係者配布分 |
| 事務経費 | 打合せ会場費 | 72,000 6,000円×12ヶ月 |
| | 事務用品費 | 36,000 |
| | 共同オフィス賃借料 | 48,000 4,000円×12ヶ月 |
| 合計 | 2,300,000 | |